

教育委員会だより

平成23年度友好市町村交流事業開催！ 町内児童51人が参加

平成23年度友好市町村交流事業、市浦訪問が6月23日（木）から24日（金）の日程で町内児童（5年生）51人の参加で実施されました。到着後、市浦小学校で歓迎のセレ

モニーを行い、五所川原市（旧市浦村）の紹介を市浦小学校児童から受けました。五所川原市の紹介はこの日のために市浦の児童が五所川原市の事を調べて大きな用紙にまとめたものを大きな声で発表してくれました。

続いて、木工センターに場所を移して交流記念品の絵馬作りを行いました。絵馬作りは木を切ったり、釘を打ったりの難しい作業がありました。木工センター職員の手導のもと安全に作業を行うことができました。

工具を使った物作りは小学5年生にはまだ難しいのでは

と思いましたが、ぎこちないながらもみんな楽しそうに絵馬作りを行っていました。記念品作りは毎回行っています。が今回のように材料から作るのは初めてです。



センター職員指導のもと、木を切る作業

出来た絵馬は市浦小学校に戻り、絵を描いたり、互いに名前を書き入れるなど交流を深めていきました。夕食は市浦小学校PTAがカレーライスと、十三湖でとれたヤマトシジミを使ったシジミ汁、果物

を用意して頂きとてもおいしくいただきました。



みんな上手にできました

2日目は、「レストラン中の島」で朝食を食べている時に店長さんが「スコップ三味線」を演奏してくれました。

スコップ三味線は一九八五年頃、青森県五所川原市在住の方が考案し、近年は世界大会が開かれるほど盛り上がりを見せています。児童たちも店長さんにリードされ名曲「千恵つこよされ」にのせて気持ちよさそうにスコップを演奏していました。「スコップ三味線」は日程に予定されていないものでしたが昨晩の大雨で中止となった十三湖でのシジミ採り体験の代わりに良い思い出ができました。



見事なスコップ三味線の演奏

朝食後は、五所川原市教育委員会の榊原滋^{さかばらしげたか}高学芸員の案内で歴史民族資料館を訪れ、十三湊遺跡などから出土された遺物や映像資料をわかりやすい説明で見学しました。その中で昔市浦と上ノ国が交易を行っていたこと、それが縁で友好町村となり現在の上ノ国・市浦の交流が行われていることなどの話もしてくれました。交流事業を行う前に、事前に勝山館跡ガイダンス施設で学習していた児童もいて上ノ国との関係について深く興味を持って聞いていました。今度勝山館跡に来る時は、今回学んだことを思い出して見学してみるとまた面白いと思います。

その後、道の駅トースムプ



ポリルームたっぶり、市浦最後の食事です



上ノ国と市浦の話を聞く子どもたち

ラザに移動し、旅の思い出になるおみやげを購入し昼食を食べ上ノ国町へ帰路につきました。今回の友好市町村交流事業は天気に恵まれず予定が変更になったイベントもありましたが、子どもたちは様々な体験をすることができました。